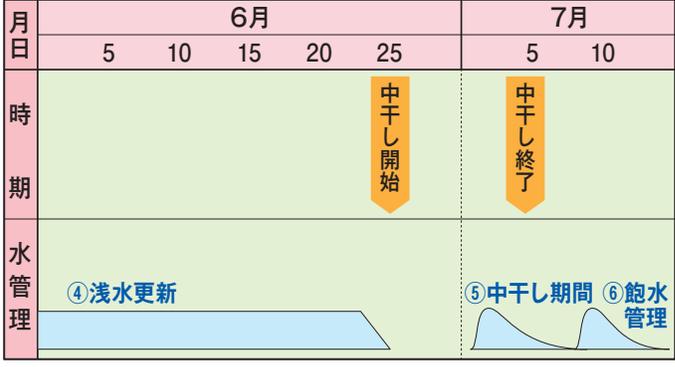




①水管理を徹底して有効茎確保を図りましょう!

②雑草の取りこぼしは早目の除草剤散布を!

◎有効茎の確保まで水管理



●水管理のポイント

中干し開始まで ⇒ “浅水管理”
2~3cmのやや浅水とし、好天時の表層剥離の発生に注意する。

中干し期間 ⇒ “落水管理 ⇄ 間断灌水”
田面に小さなヒビが入り、軽く足跡がつく程度となったら灌水する。

中干し終了後 ⇒ “飽水管理”
水尻を止水し、自然落水で田面の水がなくなり、溝や足跡の底に水がたまっている箇所が見られる状態になったら灌水をし、自然落水、入水を繰り返す。 (溝や田面の足跡に水がたまっている程度の状態を保つ)

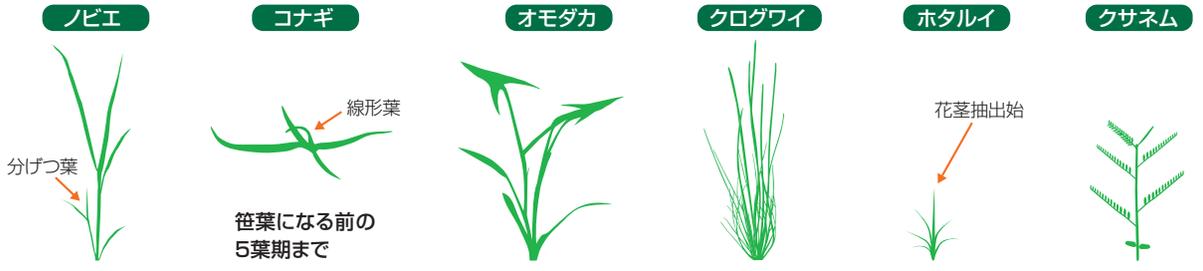
◎水田雑草の防除 (中期剤・後期剤)

水もちの良くない水田では特にヒエ、ホタルイ、オモダカ等の雑草が発生している圃場が見られます。稲の生育や、カメムシの発生に影響しますので、防除を行って下さい。

薬 剤 名		10a当り使用量	主 な 対 象 雑 草
アトトリ (環境保全米)	1キロ粒剤	1kg	移植後20日。(イネ5葉期) ノビエ4葉期まで。クログワイ・オモダカ・ウリカワ等。
	豆つぶ250	250g	
フォローアップ1キロ粒剤		1kg	移植後20日~ノビエ5葉期。(落水不要) (オモダカ・クログワイ等 早めに散布)
バサグラン粒剤 (落水して散布)		3~4kg	ホタルイ・シズイ・オモダカ等(草丈は10~15cm以下)。落水散布後は少なくとも3日間は入水をしなくてそのままの状態を保つこと。(ノビエには効果ありません。)
クリンチャーバスME液剤 (落水して散布)		1,000ml (水70-100ℓ)	移植後15日~ノビエ5葉期。広葉雑草5~15cm以下。落水した状態で雑草に噴霧器等で直接散布し3日以上は入水しないこと。

※散布時期が遅れたり、雨天が続くことにより、除草効果も劣りますので、適期散布に努めましょう。

葉齢を防除目安とするとよい雑草



●クログワイ、オモダカ、シズイ、コウキヤガラ防除は、それぞれの雑草に有効な前処理剤との組み合わせで使用してください。

水田周辺(畔畔や農道等)への除草剤散布は飛散に要注意を!!

水田周辺へ除草剤を散布する際は、薬剤の飛散(ドリフト)を避ける為、風のある日は散布を行わないようにして下さい。
また、散布ノズルは全て「飛散防止対応ノズル」で散布を行いましょ。

